



長岡市の将来人口推計について

地方創生推進部 政策企画課

11地域男女別人口の比較

H26年とR6年の人口を比較すると11地域全てで減少しており、10年間で約8%減少

- 特に、山古志地域では10年間で35%以上減少している
- 山古志地域以外の全地域で女性の転出者が多く、市全体で男性より女性が約2,000人多く転出している
- 地区別男女別の人口の比較は別紙

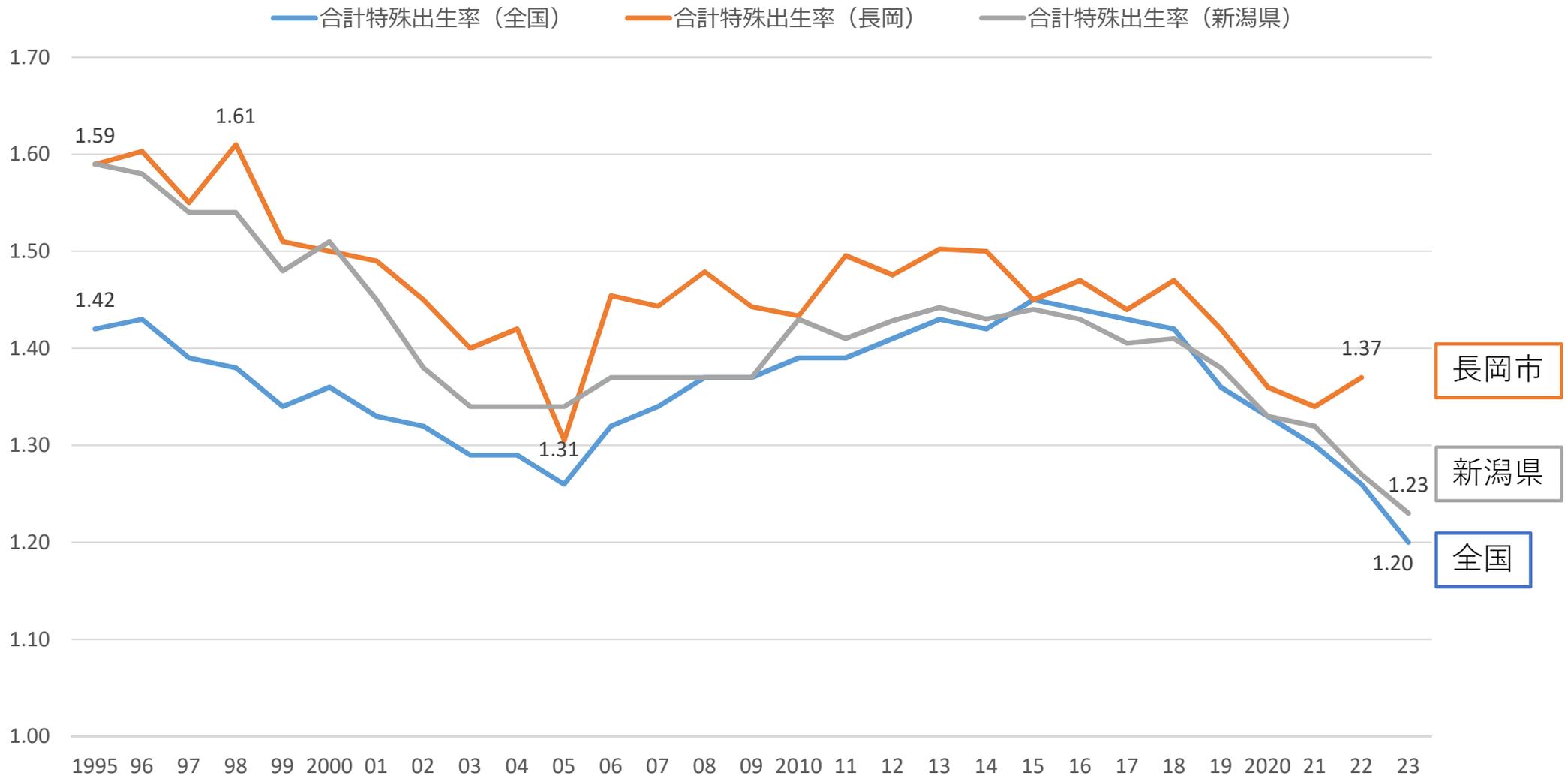
※各年外国人含む

地域名	H26.4.1			R6.4.1			比較			増減割合		
	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性
長岡市全体	279,507	136,288	143,219	256,731	125,794	130,936	▲ 22,776	▲ 10,494	▲ 12,283	▲ 8.1%	▲ 7.7%	▲ 8.6%
長岡地域	192,343	93,942	98,401	185,421	90,804	94,616	▲ 6,922	▲ 3,138	▲ 3,785	▲ 3.6%	▲ 3.3%	▲ 3.8%
中之島地域	12,067	5,916	6,151	10,608	5,249	5,359	▲ 1,459	▲ 667	▲ 792	▲ 12.1%	▲ 11.3%	▲ 12.9%
越路地域	14,379	6,923	7,456	12,826	6,227	6,599	▲ 1,553	▲ 696	▲ 857	▲ 10.8%	▲ 10.1%	▲ 11.5%
三島地域	7,124	3,431	3,693	6,287	3,091	3,196	▲ 837	▲ 340	▲ 497	▲ 11.7%	▲ 9.9%	▲ 13.5%
山古志地域	1,154	584	570	745	372	373	▲ 409	▲ 212	▲ 197	▲ 35.4%	▲ 36.3%	▲ 34.6%
小国地域	5,870	2,825	3,045	4,316	2,111	2,205	▲ 1,554	▲ 714	▲ 840	▲ 26.5%	▲ 25.3%	▲ 27.6%
和島地域	4,414	2,121	2,293	3,516	1,715	1,801	▲ 898	▲ 406	▲ 492	▲ 20.3%	▲ 19.1%	▲ 21.5%
寺泊地域	10,410	5,053	5,357	8,169	4,008	4,161	▲ 2,241	▲ 1,045	▲ 1,196	▲ 21.5%	▲ 20.7%	▲ 22.3%
栃尾地域	20,193	9,887	10,306	15,266	7,540	7,726	▲ 4,927	▲ 2,347	▲ 2,580	▲ 24.4%	▲ 23.7%	▲ 25.0%
与板地域	6,753	3,311	3,442	5,778	2,837	2,941	▲ 975	▲ 474	▲ 501	▲ 14.4%	▲ 14.3%	▲ 14.6%
川口地域	4,800	2,295	2,505	3,799	1,840	1,959	▲ 1,001	▲ 455	▲ 546	▲ 20.9%	▲ 19.8%	▲ 21.8%

合計特殊出生率の推移

2010年以降、全国、新潟県よりも高い数値になっており、2022年は1.37で微増

- 2011年に一度1.50まで回復したものの、その後は減少傾向にあり、2022年は1.37となっている
- 長岡市は2010年以降、全国、新潟県よりも高い数値で推移している

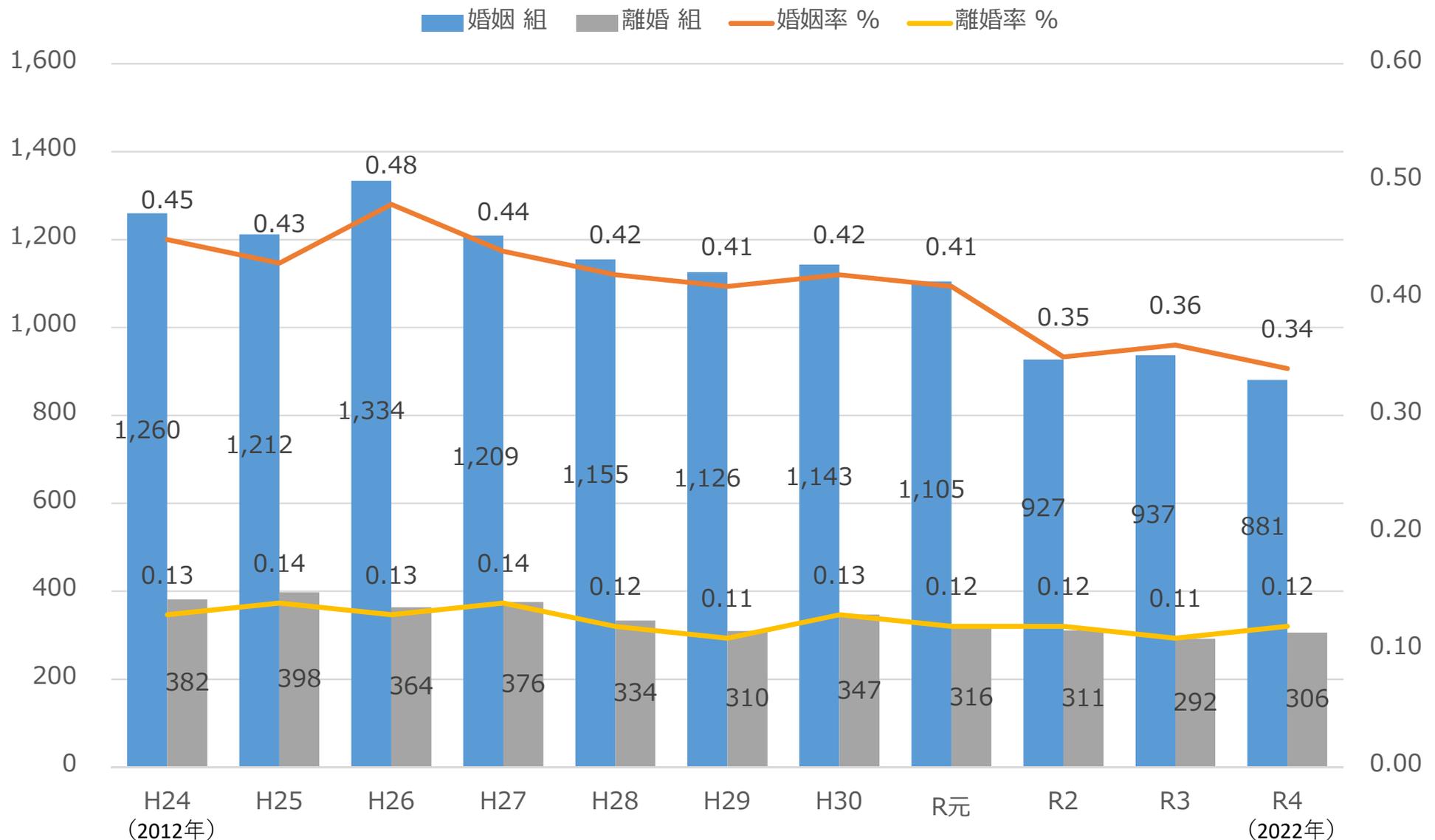


【出典】
合計特殊出生率：令和5年福祉保健年報(新潟県)

婚姻組数等の推移

婚姻組数は年々減少しており、2022年は881組で10年間で約30%減少

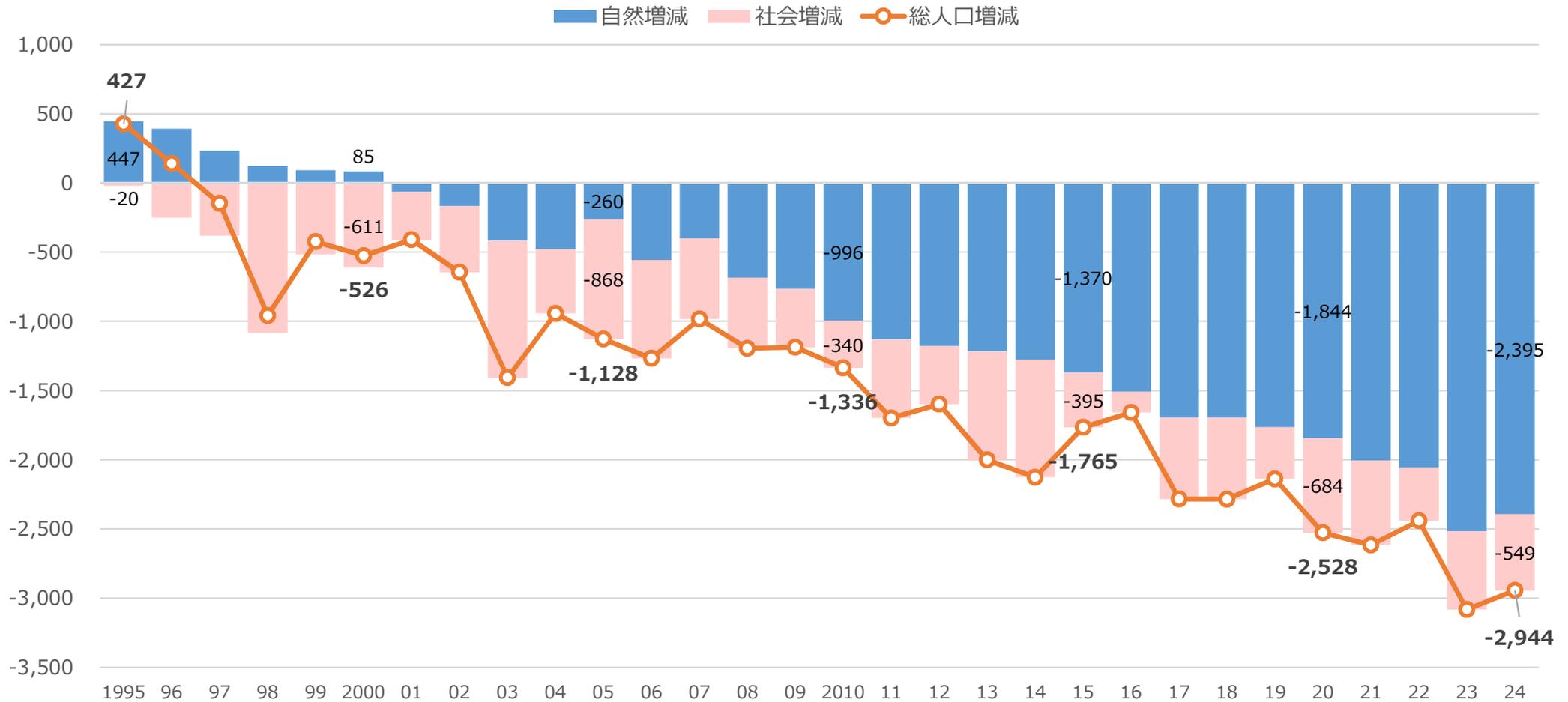
- 婚姻組数は2012年の1,260組から10年間で約30%減少し、881組となっており、婚姻率も年々減少している
- 離婚率は2012年以降ほぼ横ばいで推移しており、年間約300組となっている



自然増減・社会増減の推移

2001年以降、自然減及び社会減による人口減少が継続。2024年は2,944人/年の減少

- 長岡市は2000年までは自然増であったが、2001年以降は自然減に転じている。減少人数は年々増加傾向にあり、2024年には2,395人の自然減となっている
- 1995年以降社会減が続いており、2024年には549人の社会減となっている

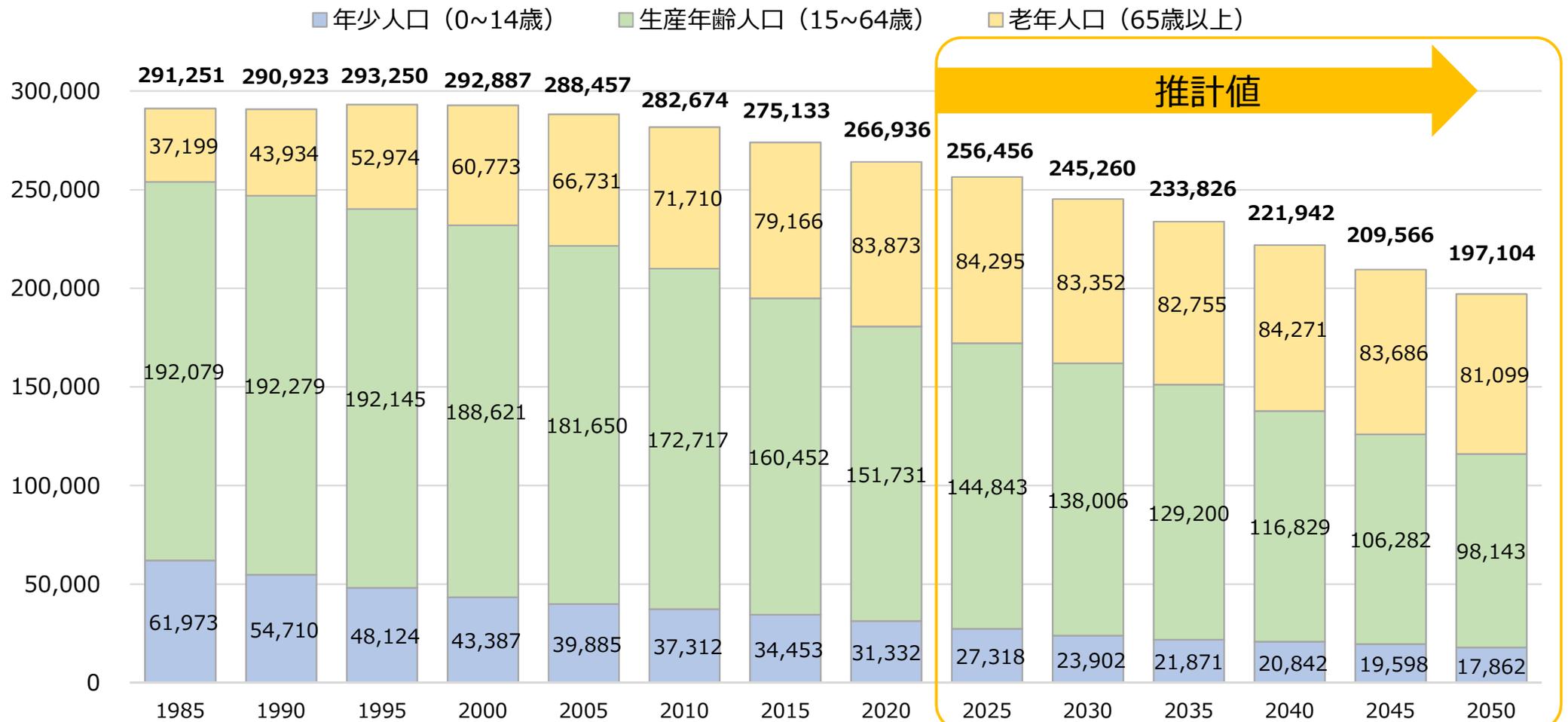


【出典】
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（総務省統計局）

総人口の推計

総人口は年々減少の見込み。2035年には年少人口が総人口の9%に

- 総人口は、1995年の293,250人をピークに年々減少。次期総合計画最終年度の2035年には233,826人となる見込みとなっている
- 14歳以下の年少人口は、2035年に21,871人となり、総人口の9%となる見込み
- 15歳から64歳の生産年齢人口は、2035年に129,200人となり、2020年から約22,500人減少。総人口の約55%となる見込み
- 65歳以上の老年人口は、2035年に82,755人となり、総人口の約35%を占める見込み

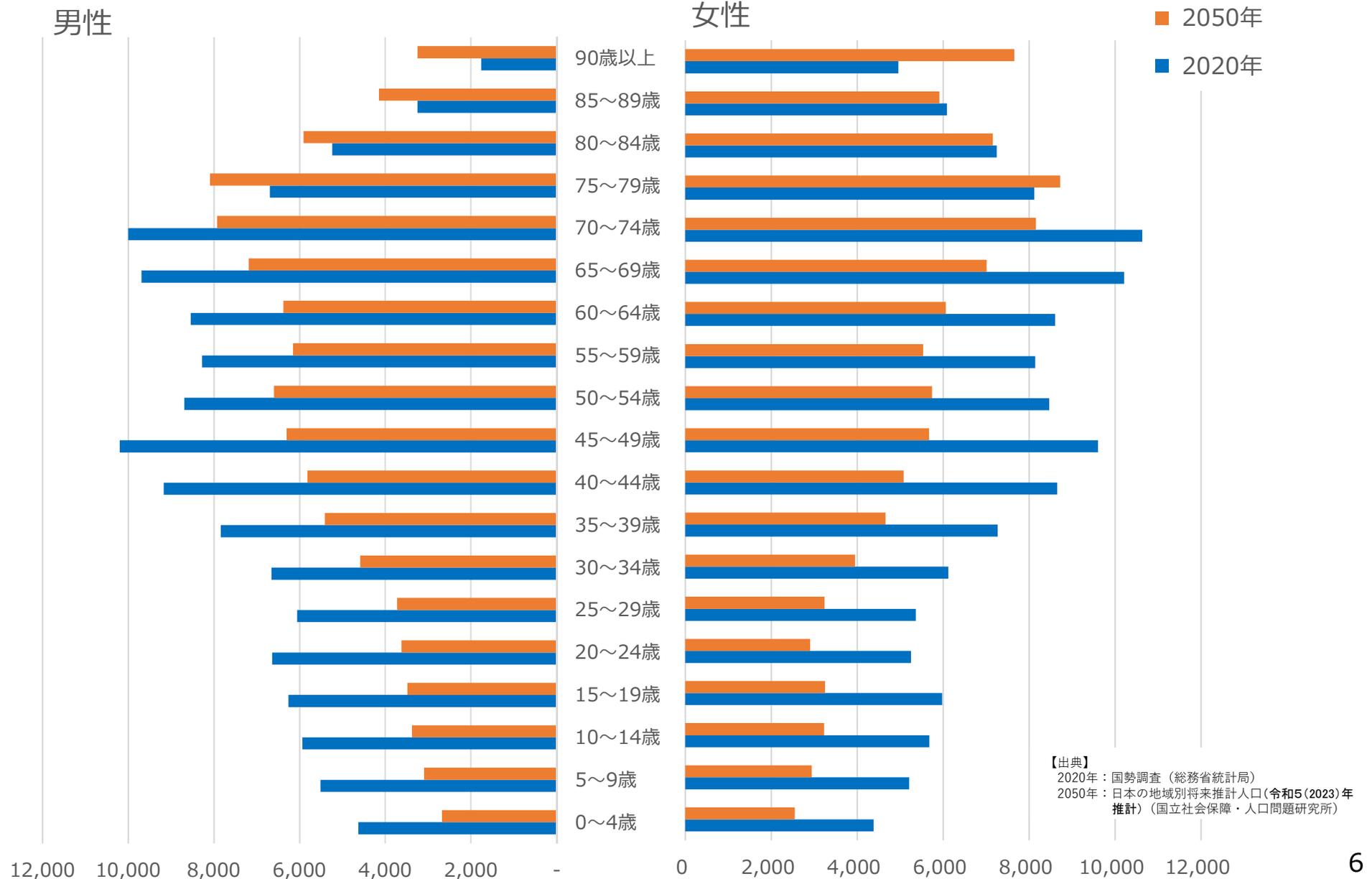


【出典】
 1985年～2020年：国勢調査（総務省統計局）
 2025年～2050年：日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

将来人口推計(人口ピラミッド)

2050年は、男女ともに75～79歳の階層が最も多くなり、74歳以下は全て減少

- 2020年と2050年を比較すると男女ともに0～74歳まで全てで人口が減少する見込みとなっている
- 75歳以上は男女ともに増加傾向にあり、2050年には、75～79歳の階層が最も多くなる見込みとなっている

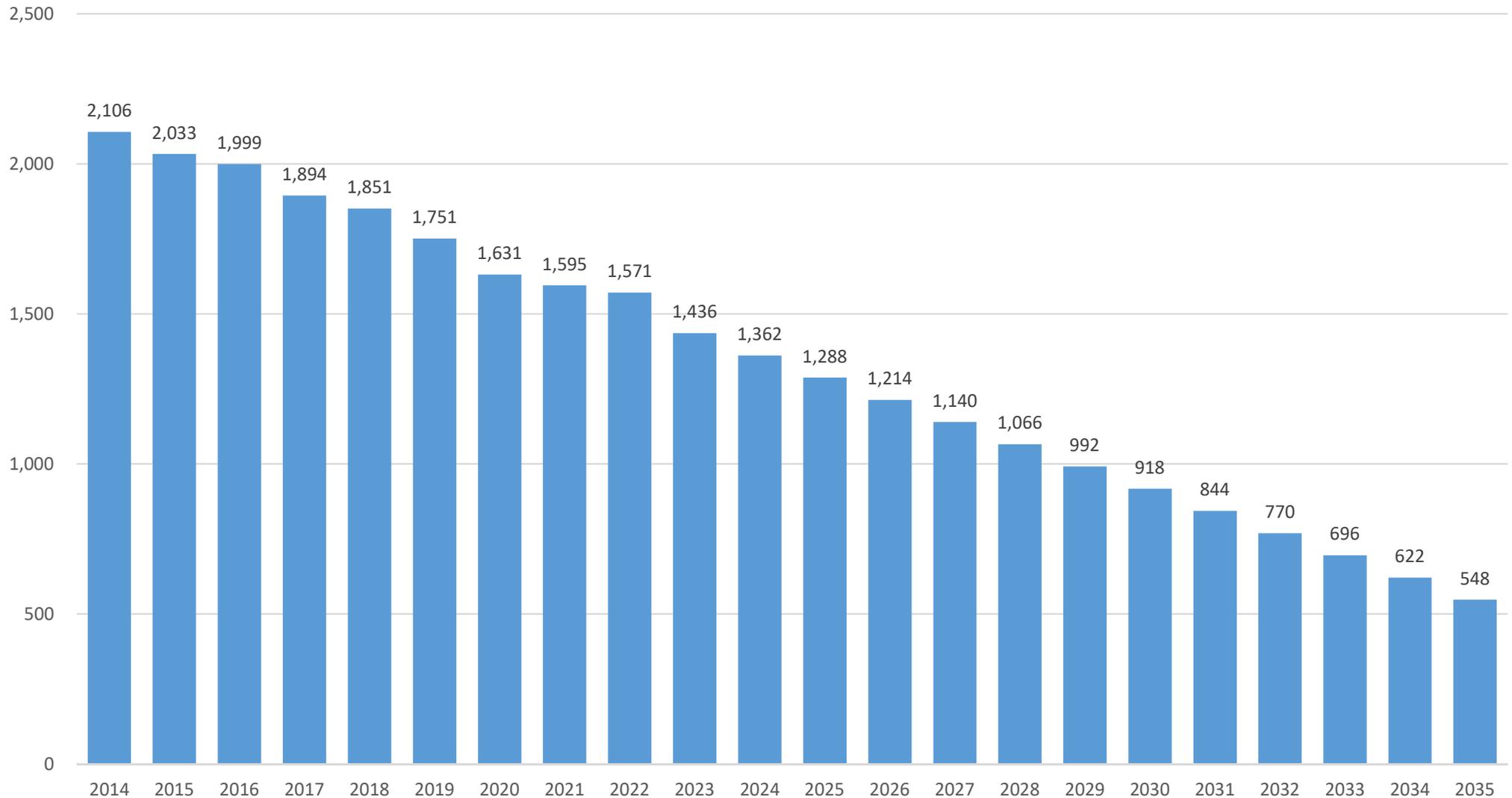


【出典】
2020年：国勢調査（総務省統計局）
2050年：日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

出生数のトレンド

出生数が現在のペースで減少した場合、2029年に出生数が1,000人/年を下回る可能性

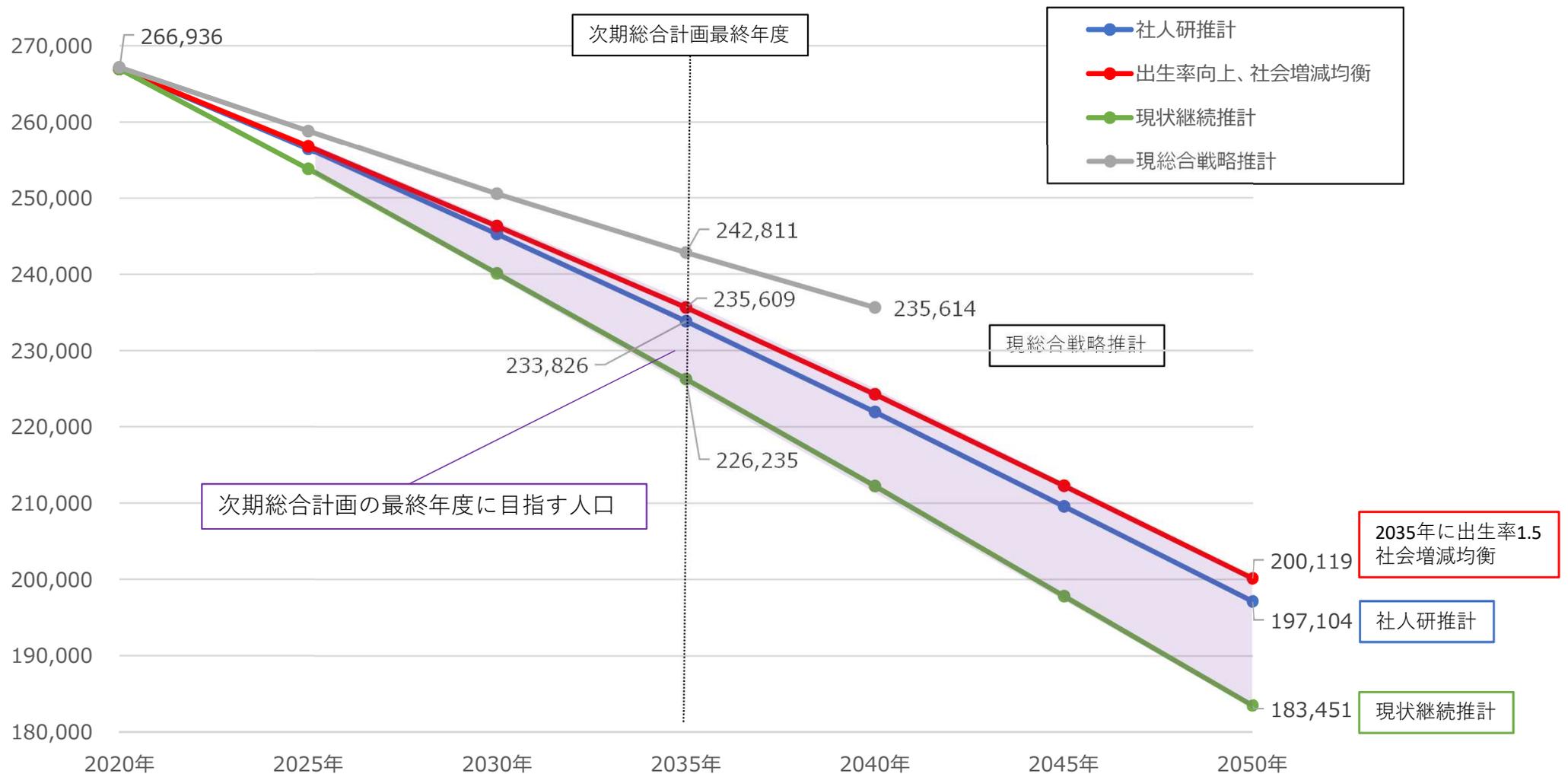
- 2014年から2024年までの出生数を基に、2025年以降の出生数のトレンドを作成
- 出生数は年々減少し、これまでと同様の減少（74人/年）が続いた場合、2029年には出生数が1,000人を下回る見込み



長岡市人口の将来展望

人口減少を緩やかにすることで、現状継続推計を上向きに押し上げることを目指す

- 国立社会保障・人口研究所（以下、「社人研」という）が令和5年4月に公表した「日本の将来人口推計」では、計画最終年度の2035年に233,825人、2050年に197,104人となる見通し
- 現在の人口減少の傾向が今後も続くと、2035年には社人研推計を約7,600人下回る見込み
- 2035年に出生率上昇（1.37→1.5）、社会増減均衡（▲566→0）を達成した場合、社人研推計を約1,800人上回る見込み



【出典】日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計) (国立社会保障・人口問題研究所)